



株式会社不動テトラ

2024 年 3 月期決算説明会

2024 年 6 月 4 日

イベント概要

[企業名]	株式会社不動テトラ		
[企業 ID]	1813		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2024 年 3 月期決算説明会		
[決算期]	2024 年度 通期		
[日程]	2024 年 6 月 4 日		
[ページ数]	36		
[時間]	15:30 – 16:23 (合計：53 分、登壇：40 分、質疑応答：13 分)		
[開催場所]	インターネット配信併催 103-0026 東京都中央区日本橋兜町 3-3 兜町平和ビル 2 階 第 2 セミナールーム (日本証券アナリスト協会主催)		
[会場面積]	145 m ²		
[出席人数]	36 名		
[登壇者]	3 名		
	代表取締役社長	奥田 眞也 (以下、奥田)	
	取締役 常務執行役員 管理本部長	川地 洋治 (以下、川地)	
	管理本部 財務部長	北垣 大輔 (以下、北垣)	

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



登壇

司会：お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただ今から、株式会社不動テトラ様の2024年3月期の決算説明会を開催いたします。本日の説明会は、会場での開催に加えまして、ライブ配信形式のオンラインと併せてハイブリッド方式で開催させていただきます。最初に、会社からお迎えしている3名様をご紹介します。まず、代表取締役社長の奥田眞也様。

奥田：奥田でございます。よろしくお願いいたします。

司会：ありがとうございます。取締役、常務執行役員、管理本部長の川地洋治様。

川地：川地でございます。よろしくお願いいたします。

司会：管理本部、財務部長の北垣大輔様。

北垣：北垣でございます。よろしくお願いいたします。

司会：どうもありがとうございます。本日のご説明は奥田様からいただくことになっております。説明の後に質疑応答の時間といたします。それでは奥田様、よろしくお願いいたします。

目次



- ・ 1 ・ 前中期経営計画の振り返り
 - ・ 2 ・ 中期経営計画（2024～2026年度）
 - 市場環境
 - 各基本方針
 - 基本方針と経営目標
 - 事業部別戦略
 - 連結数値目標
 - 株主還元政策
 - ・ 3 ・ 主な完成案件・トピックス
- （参考資料）
- 2024年3月期決算短信（連結）
 - 2024年3月期（連結）決算補足説明資料
 - CSRレポート

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 3

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



奥田：本日は弊社の2024年3月期の決算説明会に、お忙しい中ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から弊社の社業ならびにIR活動にご理解をいただいていますことを重ねて御礼を申し上げます。

本日は、2024年3月期の決算説明会ではありますが、前年度で中計3カ年が終わりました。そして、今年度より新しい中計がスタートしておりますので、前中計の振り返りと、本中計に関する説明をメインとしてお話をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

まず、お手元の資料のご確認をお願いします。本日、説明に使わせていただく資料、そして参考資料としまして、2024年3月期決算短信、決算補足説明資料、それとCSRレポートをお手元に配布させていただいております。ご確認よろしくお願いいたします。それでは早速、説明に入らせていただきます。

前中期経営計画の振り返り

市場環境の悪化や大型工事での採算悪化等により、業績目標・資本効率目標が未達となったが、配当性向は目標を堅持した。また、ESG経営の実践により、社会への貢献を追求した。

(億円/%)	前中期経営計画(目標)				前中期経営計画(実績)			
	2021年度	2022年度	2023年度	累計	2021年度	2022年度	2023年度	累計
期初手持高	700	640	587	—	700	674	710	—
受注高	690	724	776	2,190	639	740	692	2,071
売上高	750	777	809	2,336	668	705	679	2,052
営業利益	38.0	39.0	43.0	120.0	33.0	36.0	26.6	95.6
営業利益率	5.1%	5.1%	5.3%	—	4.9%	5.1%	3.9%	4.7%
当期純利益	24.0	26.0	28.0	77.0	20.6	21.7	20.1	62.4
ROE	8%以上				7.0%	7.1%	6.3%	—
配当性向	40%程度				44.4%	42.2%	45.5%	—

年度別数値目標・実績



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 5

まず、前中計の振り返りということで、目標に対して3カ年、なかなか厳しい結果ではありました。新型コロナの感染拡大が徐々に収まる中でしたが、毎年、決算説明でお話もさせていただきましたが、2022年度につきましては、急激な資機材の高騰や発注ロットの縮小によって事業が縮小された影響を受けて、ブロック事業が悪化しました。

昨年度につきましては、かなり多くの手持ちの工事を持ってスタートいたしましたが、土木事業において、かなり大規模な工事において許認可の申請が、なかなか許可が下りずに着工できなかった

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

工事、あるいは大規模な都市土木工事で工事中断等が発生した、そういったことが重なりまして、工事損失引当金を引き当てるなどのこともありました。

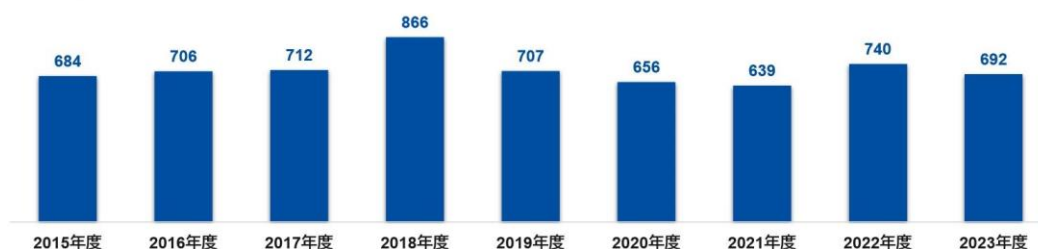
結果的に土木がかなり悪化したということで、先期につきましても誠に残念な結果ですが、利益的に目標を達成できなかったのが中計の大きな総括です。

ただ、その中でもそれぞれ会社としての将来のための成長戦略の意味での投資、あるいは施策についてはしっかり実施をしてきました。その辺についても少しご説明をさせていただきたいと思います。

【参考】 全社 過年度推移



◆ 受注高（億円）



◆ 売上高（億円）



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 6

これが受注高、ここ約10年の推移ですけれども、そんなに落ち込むことなく、700億円前後での受注を続けてきています。売上は、ただどうしても昨年度につきましては土木事業の工事中断、あるいは大規模工事が着手できないことで少し下回った結果にはなりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



【参考】 全社 過年度推移



◆営業利益・営業利益率(億円・%)



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 7

結局、そういったことが影響して、2024年3月期につきましては、営業利益、営業利益率とも例年に比べると少し低い結果となっております。

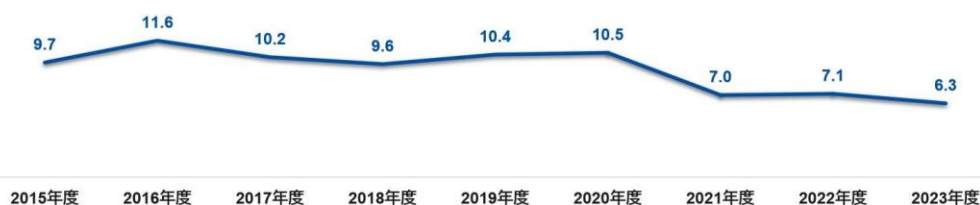
【参考】 全社 過年度推移



◆EBITDA(営業利益+減価償却費:億円)



◆ROE(自己資本当期純利益率:%)



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 8

ただ、営業利益は厳しかったんですけども、設備投資や研究開発についてはしっかり継続して実施をしておりますので、減価償却費を足したレベルでは、ある程度、毎年のレベルに近い形で推移をしております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

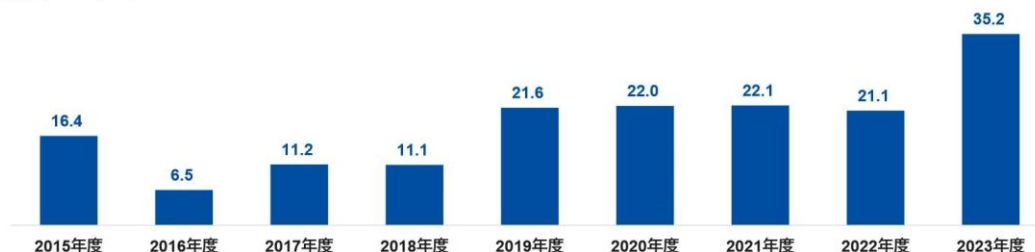


自己資本がしっかり積み上がっている割合に比べると、どうしても利益がなかなか生み出せなかったということで、ROE については 8%という目標を中計で掲げておりましたが、最終年度は 6%台ということで、少し残念な結果になりました。

【参考】 全社 過年度推移



◆ 設備投資（億円）



◆ 研究開発（億円）



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 9

設備投資の金額をお示ししています。見ていただきますと、徐々にかなりの投資をしてきております。特に昨年度は 35 億円で、かなり大きな設備投資をしております。結果的に前中計、その前の中計も成長戦略という意味では将来への利益を生む投資ということで、活発な設備投資を続けております。

後ほどご説明しますが、メインとなってきていますのは、地盤改良事業に関して大きな投資活動を続けております。同様に、研究開発費につきましてもかなり右肩上がりが増えてきております。これは事業領域を拡大すると、あるいは新しい事業に取り組む、そしてカーボンニュートラルを中心とした世の中のわれわれに求める技術を研究開発するということで、研究開発には大きな投資、あるいは資金をつぎ込んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



【参考】 全社 過年度推移



◆ 自己資本・自己資本比率（億円・％）



◆ 配当総額・配当性向（億円・％）



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 10

先ほど申し上げましたように、自己資本については積み上がってきております。

配当性向につきましては40%とお約束をしております。2023年度、当然、株主総会の決議事項となりますが、現在60円ということでかけさせていただくつもりをしております。40%を超えて45%ぐらいになりますけれども、60円の配当を株主総会にかけさせていただく予定をしております。

事業別の状況 土木事業



長期安定性の確保を目指した各種戦略の取り組みにより大型工事の受注を獲得するも、手持工事の着工遅れ・コスト増により売上高・利益ともに伸び悩んだ。

事業方針

長期安定性の確保(受注、利益、人員)～「守り」から「攻め」へ～

主な事業戦略

- 事業規模の拡大
- 採算性の向上
- 戦略的パートナーシップの構築
- 研究開発・設備投資
- 採用(人的投資)
- 教育
- 働き方改革



主な取組み

事業規模の拡大

- 戦略プロジェクト案件の受注
- リニューアル事業への参入

生産性の向上

- 原則CIM化への対応
- 建設DXに向けた取り組み

技術開発の促進

- ICT消波工への対応
- AI活用による切羽判定システム開発
- 海洋関連自社独自技術の開発促進

環境関連事業拡大

- 除染除去土壌の減容化技術の開発

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 11

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



少し各事業について振り返らせていただきます。土木事業です。基本的には長期的に安定してしっかり受注をして、積極的に営業展開をしようということで前中計がスタートをしました。生産性の向上や技術開発の促進にもしっかりと取り組んで、研究所にも土木の研究開発ができる組織も組み入れましたし、研究所の中に土木の要員も配置する形で取り組んできました。当然、環境関連の事業についても研究開発を進めていました。結果的に 2021 年、22 年は目標に対しておおむね目標を若干下回るか上回る形で結果を残してまいりました。

ところが昨年度、いまだかつてない大きな赤字という結果になりました。要因は、期初に予想できなかった大きな工事での予想外のことが起こっております。

一つには 100 億円近い廃棄物の処分場の工事、もう受注して契約しておるんですけれども、許認可がなかなか下りず、最終的に昨年度はほとんど着手ができませんでした。ただし、4 月には起工式は無事終わりました。7 月以降は昼夜施工という形で、取り組むということで体制を万全にしております。ただ、昨年度についてはかなり予想に反した結果となりました。

もう一つ、都市土木工事で工事中断が長引いています。人員も当然、配置をしておりますし、設備も現地はそのままです。その中で工事が中断したままということで、大きな損失が発生しております。

この 2 件が大きな要素としまして、大きな工事二つが、期初に想定していたのと全く逆の方向に進んだということで、私どもとしては一過性という判断を現時点ではしております。今期以降についてはしっかり動き出すと考えております。ですので、かなり大きな額が損失として発生しました。

それと、受注が若干苦しくなりましたのは、受注も少し売上も下がっていますが、どうしても多くの人間を大きな現場に配置して工事が動かない状況ということで、新規工事にチャレンジが難しかったというのも影響しております。

サポート

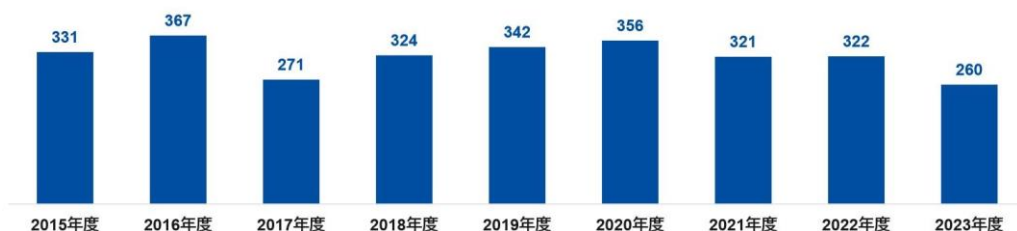
日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



【参考】土木事業 過年度推移



◆ 売上高（億円）



◆ 営業利益（億円）



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 12

土木の近年の推移です。見ていただきますと、如実に 2023 年度が売上、利益面でも過去と比べると全く違った結果を残したことになります。

事業別の状況 地盤改良事業



新技術の開発・導入を軸とした事業の発展・拡大のほか、主力工法の改善にも取り組み、工事採算性が向上した結果、売上高増・営業利益増となった。

事業方針

多様化する社会的要求への対応に向け、新技術の開発・導入を軸とした持続的な事業の発展と周辺事業領域の更なる拡大

主な事業戦略

- 主力工法の改善改良による競争力アップと事業量の確保
- 海外事業の安定化
- 新技術・新工法の開発・導入による周辺事業領域の拡大
- 利益体質の更なる向上
- 人材の確保・育成と働き方改革への対応



主な取組み

- 主力工法の改善改良**
 - PJ (Type III) の運用、ICT 技術の本格導入
- 新技術・工法の開発・導入強化**
 - トータルリソイルPro、HIFIII-CP、バイオマス混合（竹チップ）CP の開発
- 海外事業の安定化**
 - 米国：AGI との連携
 - アジア：バングラディッシュに拠点開設
- 利益体質の更なる向上**
 - 機械センターの統合
 - ICT 施工の本格運用

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 13

次に、地盤事業です。ここは土木とは逆といいますか、かなり積極的に事業展開をしておりますので、当然、右肩上がりで進捗するだろうという計画をしておりました。結果的に 2023 年度については、ここ 10 年では最高の利益と売上を上げた結果になりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



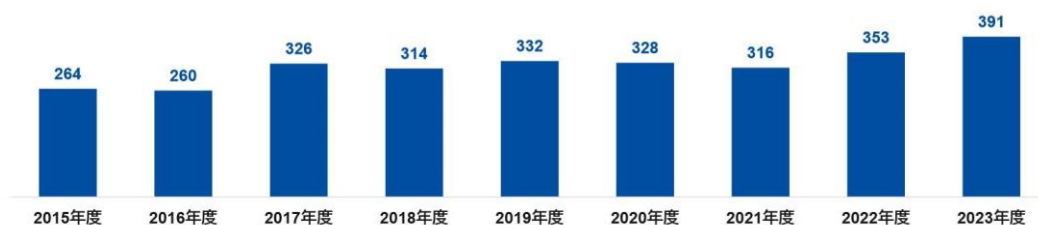
要求される技術、それと要求される施工能力をしっかりとご提供できたことと、新しい事業領域に少しずつですけれども確実に進出できている結果の表れだと判断をしております。

特に海外事業のアメリカ子会社と、49%出資しています AGI との連携によるアリゾナでの大規模な工事も竣工いたしました。それと、アジアではバングラデシュの新交通システムの車両基地、インドネシアの港湾関係の工事、この2件も完工するという事で、海外事業も比較的安定した結果を残しました。その中で、引き続き新しく始めました中計にも、しっかり利益を出せるように、前中計でその先に向けた投資活動にもしっかりと取り組んできたのが地盤事業でございます。

【参考】地盤改良事業 過年度推移



◆ 売上高（億円）



◆ 営業利益（億円）



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 14

見ていただきましたら分かりますように、売上は右肩上がりで伸びてきております。利益も旺盛なときで30億円を超える営業利益が大体地盤の傾向だったんですけれども、先期につきましては40億円を超える営業利益が出たという結果です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



事業別の状況 ブロック環境事業



災害案件の減少や資材・労務費高騰に伴う発注ロットの抑制等、市場環境の悪化により計画未達となったものの、ブロック事業のリーディングカンパニーを堅持した。

事業方針

技術に裏付けされた製品により安定した収益を図り、ブロック事業のリーディングカンパニーを堅持する
事業フィールド:「防災・減災」「環境」「海外」

主な事業戦略

- ・ 分野別シェアの維持・拡大を図るとともに新市場へ参入し、トップシェアを堅持する
- ・ 収益力の向上
- ・ 商品販売事業での長期的収益確保
- ・ 海外展開
- ・ ESG経営を意識した企業価値向上への寄与



主な取組み

カーボンニュートラルへの取り組み

- 脱炭素:環境配慮型コンクリートの利用技術開発
- 炭素固定:ブルーカーボン増大に資する商品開発

ICTの活用技術開発

- 消波工メンテナンス設計手法へのICT活用技術を開発

大型プロジェクトへの参画

- 馬毛島施設整備事業、中部国際空港

分野別シェアの維持・拡大への取組み

- 高波浪領域対応ブロックの開発
- 既存ブロックの改良再生、グループ会社製品の取扱い

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 15

次に、ブロック環境事業です。冒頭にお話ししましたように、前々期、極端にブロック環境市場が悪化をしました。これは資機材の高騰や人件費の高騰によって、消波ブロックを含む工事が、工事金額としては同じですけれども、その中に含まれます消波ブロックの1件当たりの個数が激減しています。

私どもは工事費で受けずに、皆さんご存じのように賃貸事業で受けますので、工事費ではなくブロックの個数の型枠賃貸ということになりますので、それが大きな影響を受けて前々期、赤字に転落をしました。これにつきましては、傾向的には市場が急激に良化すると見ておりません。ただ、その中でいかに利益を出すかということで、少し市場の見方、あるいは消波ブロック以外の環境商品等にも力を入れるということで、少し施策を変えてきました。結果的に、2023年は何とか黒字化まで戻ってきております。

新しい中計につきましても、市場が一気に回復するといった工事量は見ておりません。ただ、大規模なプロジェクトはいくつか続きますので、そういったものを取り込みながらということで、新しい分野、環境に配慮したカーボンニュートラルへの取り組みを続けながら、少し違った市場にも営業展開をするということで、新しい中計を迎えております。

サポート

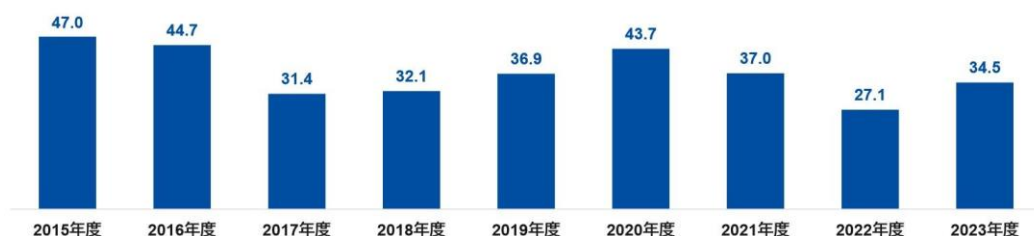
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



【参考】ブロック環境事業 過年度推移



◆ 売上高（億円）



◆ 営業利益（億円）



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 16

かなり持ち直していたんですけども、急激な悪化が現れたのがブロックの現状です。

前中期経営計画の振り返り



持続的成長に向けた主な取組みと成果

環境、防災・減災に寄与する技術

- 温室効果ガス削減の技術開発
- ICT施工に関する技術開発
- 環境配慮型工法の開発

気候変動関連取組

- TCFD提言への賛同と情報開示
- 自家消費型太陽光発電の運用開始
- 営農型太陽光発電の運用開始



持続可能な社会実現に向けた体制構築

- サステナビリティ委員会設置
- 健康経営の推進(健康経営優良法人認定)
- 多様性の推進(再雇用制度内容の拡充、えるぼし認定)
- 働き方改革への更なる取組み(労働時間の適正化推進)
- SDGsの推進(社会貢献活動推進、みなとSDGsパートナー認定)



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 17

他に、いろんなことを取り組んできております。防災・減災は当然ですけども、環境に配慮した技術の開発も着々と進めております。また、気候変動関連への取り組みとして、自社での消費型の太陽光発電も運用しておりますし、営農型の太陽光発電も福島で運用を開始して、地域の皆さんへの貢献も開始をしております。

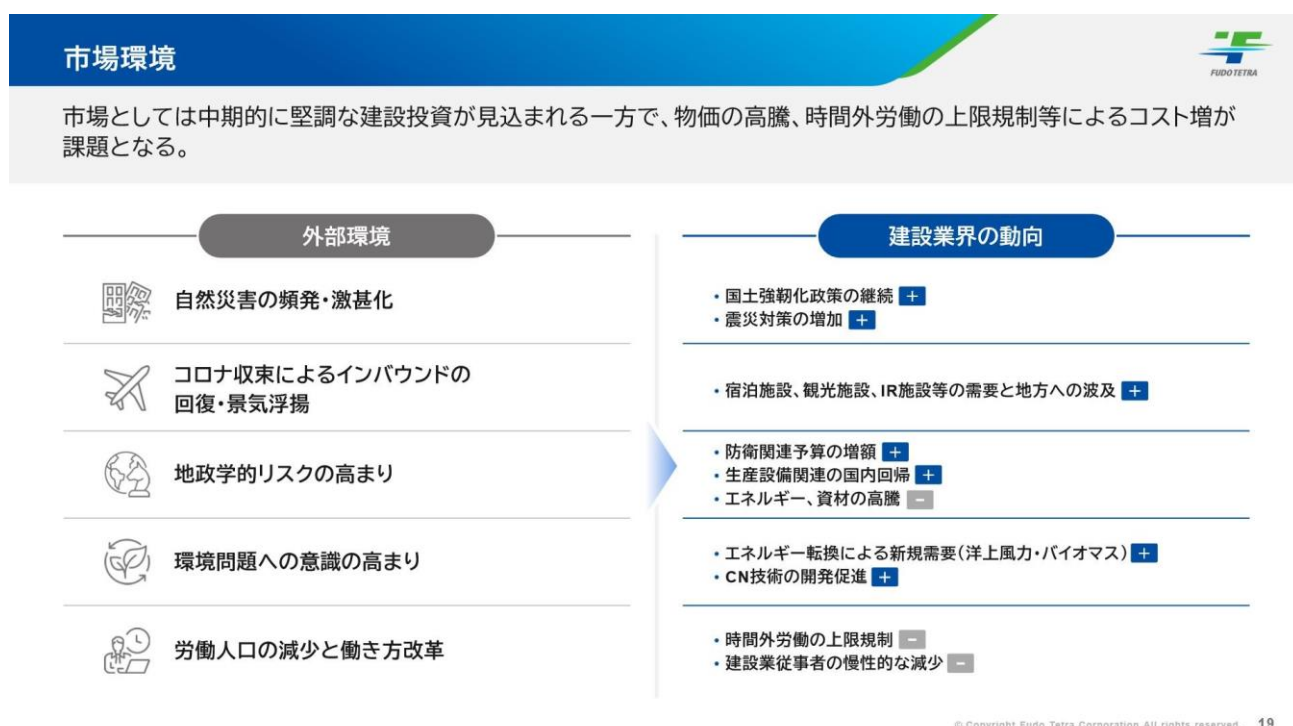
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



また、持続可能な社会実現に向けた体制の構築といったことで、サステナビリティ委員会も設置しておりますし、健康経営も優良法人の認定を受けました。また、いろんな意味で多様化に向けた取り組みもしておりますし、SDGs の推進としても、みなと SDGs パートナーの認定も受けてきております。

また、技術研究所もかなり投資をしまして、再整備も終わりました。地盤の機械の整備や能力の開発を続けております。機械センターも新しくリニューアルをしております。



こういった形の前中計を受けまして、課題もいくつかありました。そういったものを踏まえて、この4月から新しい中計をスタートさせております。

外部環境につきましては、皆様もよくご存じのとおりです。いろんなプラス要因もありますが、どうしても私どもはこの物価の高騰と、やはり時間外労働の上限規制、そして慢性的な人手不足、こういったものはどうしてもマイナス要因というか大きな課題です。これにいかに取り組んでいくかということで、こういったプラス要因をしっかりと事業の展開に取り組んでいくことが重要だと考えました。

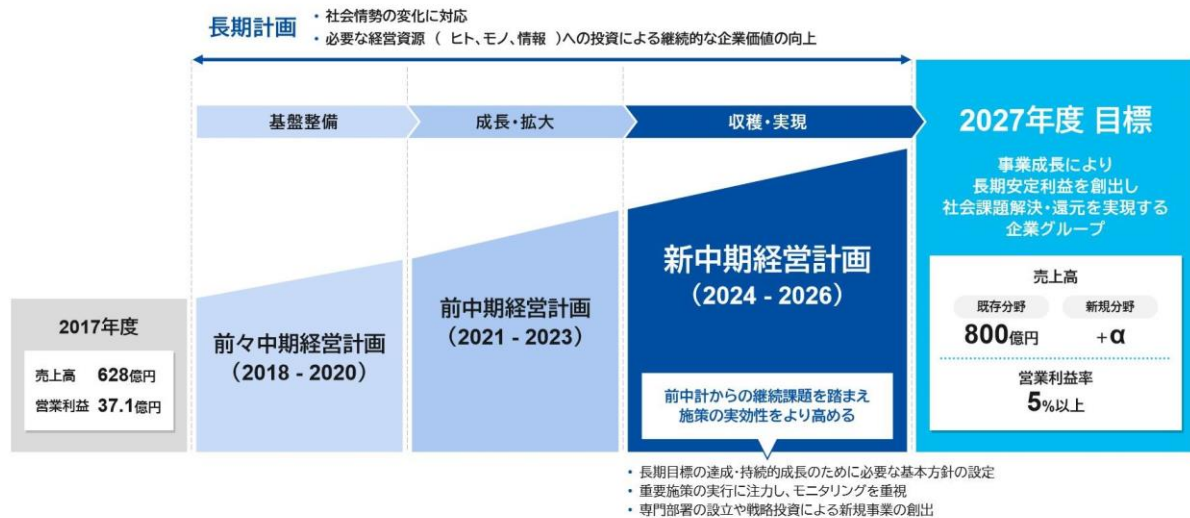
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

中期経営計画(2024～2026年度)の位置づけ



新中期経営計画は、長期計画の最終段階にあたる「収穫・実現」のフェーズ



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 20

その中で、前々中計、前中計、実は2018年のスタート時点で10年の長期スパンの中で3回の中計の位置付けを決めて計画し、実施をしてきております。この前々中計はかなり良好な状況といえますか、想像以上の結果が出て、実は成長拡大の前中計に入りました。ところが新型コロナの影響もありましたけれども、先ほどご説明をしましたように、なかなか満足いく結果は出ませんでした。

ただ、その中でもこの10年先を見据えた必要な経営資源への投資、あるいは企業価値の向上に向けた取り組みは、苦しい中でもしっかり取り組んできたつもりです。それを受けまして、いろんな反省も踏まえて新中計、この4月にスタートさせております。

最終的な目標に向かって、収穫と実現の3カ年と位置付けて、しっかり前中計の課題も受けて、重要な施策をしっかりモニタリングしながら最終目標に向かっていきたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



基本方針と経営目標



市場環境と前中期経営計画での成果・課題を踏まえ、さらなる成長を目指す

◆ 基本方針



◆ 経営目標

業績目標	3か年累計営業利益 120億円以上
資本効率目標	2026年度ROE 9%以上
株主還元目標	配当性向 40%程度、1株当たり配当金 60円以上

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 21

基本方針として四つを示させていただきます。新規事業の創出と事業領域の拡大、そして二つ目としては、これも継続してやってきております。経営理念を基盤とした ESG 経営の実践。そして資本コストを意識した経営の実践、これも前中計からも取り組んできております。新しく 4 本目の柱として、人的資本経営の推進を挙げさせていただいております。

そして経営目標です。業績目標としては、3 カ年で累計営業利益 120 億円以上、資本効率目標として 2026 年度、3 カ年目の ROE を 9%以上という目標設定をさせていただいております。

株主様への還元目標としましては、配当性向は 40%程度、ただし 1 株当たりの配当金は最低 60 円以上という表現で目標を設定させていただきました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



連結数値目標



(億円/%)	前中期経営計画(実績)				新中期経営計画(目標)			
	2021年度	2022年度	2023年度	合計	2024年度	2025年度	2026年度	合計
期初手持ち高	700	674	710	—	723	758	778	—
受注高	639	740	692	2,071	750	765	775	2,290
売上高	668	705	679	2,052	715	745	780	2,240
営業利益	33.0	36.0	26.6	95.6	30.0	42.0	48.0	120.0
営業利益率	4.9%	5.1%	3.9%	4.7%	4.2%	5.6%	6.2%	5.4%
ROE	7.0%	7.1%	6.3%	—	6.0%	8.0%	9.0%	—
配当性向	44.4%	42.2%	45.5%	—	40%程度			—

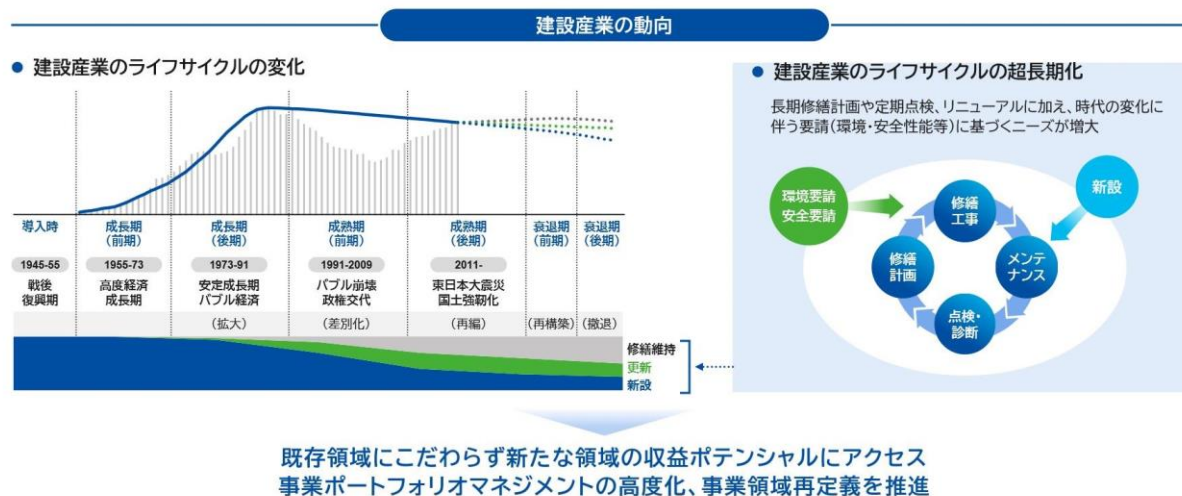
© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 22

数値計画です。こちらに前中計の実績、右側に新中期経営計画の数値目標を挙げさせていただきました。受注、売上は約10%以上の増、利益は20%以上増を目標としております。また、営業利益率も10カ年の最終年度の目標であります5%以上を平均でクリアして、最終年度は6%程度を目標としてスタートしたい。ROEに関しましても6%、8%、9%と右肩上がりで改善していくという目標でございます。

基本方針① 新規事業の創出と事業領域の拡大



建設産業のライフサイクル・超長期化を踏まえ、事業ポートフォリオマネジメントの高度化から、事業領域の拡大、新規事業の創出を目指す。



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 23

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

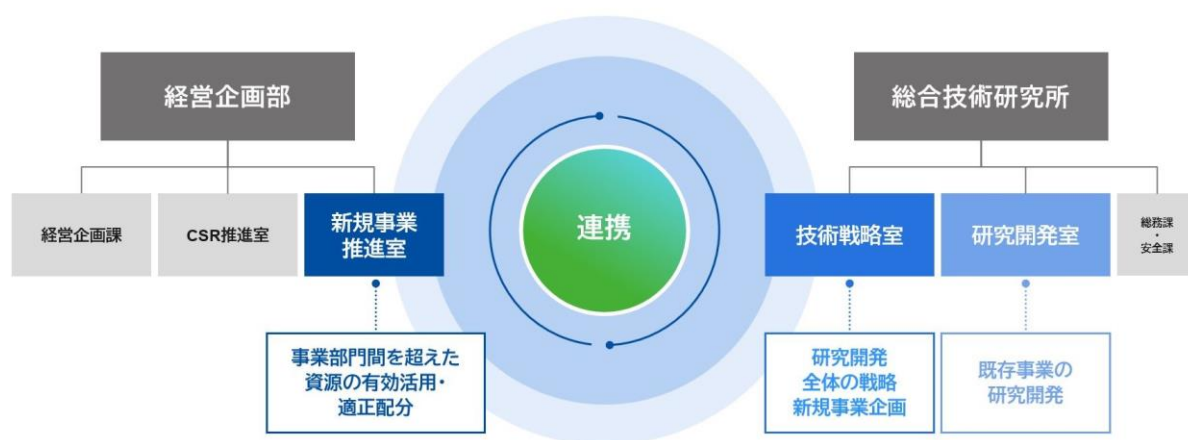


基本方針は四つ挙げさせていただきました。どうしても建設市場はいろんな社会の状況によって市場が膨らんだり縮んだりしてきています。新設事業から、皆さんご存じのように更新、あるいは維持修繕に分野は移ってきております。その中で、われわれとしては事業ポートフォリオのマネジメントをしっかりと高度化して、事業領域の再設定を進めていく意味で、こういった基本方針を進めさせていただきます。

基本方針① 新規事業の創出と事業領域の拡大



2024年4月、総合技術研究所の組織改正と新規事業推進室の新設を実施。
新たな体制下で、全社横断的な視点からの資源活用・配分と新たな事業創出のさらなる加速を図る。



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 24

この4月1日に、その方針を実際に担う部署として、本社の経営企画部に新規事業推進室を、そして新しくこの4月1日に3事業のトータルの総合技術研究所として役員を配置して、新しくスタートしております。そこに技術戦略室を設置しました。この二つの部署を中心に、事業部門の枠を超えてしっかり資源を運用しながら、あるいは適正配分をしながら、新しい事業領域、今の三つの事業に加わるプラスアルファをこの3年でしっかり形として示したいということで、こういう組織を新しくつくっております。

サポート

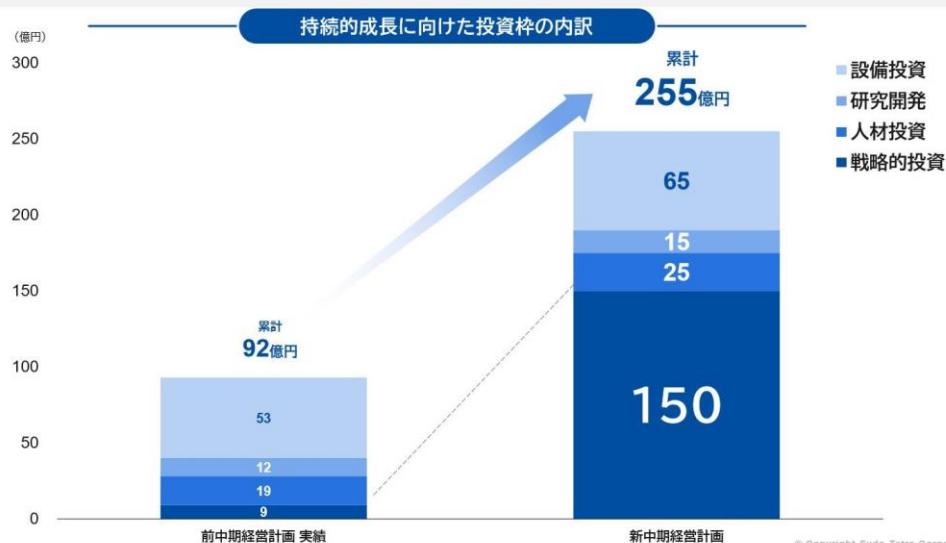
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



基本方針① 新規事業の創出と事業領域の拡大



新中期経営計画では255億円へ拡大投資を行う。※前中期経営計画での投資額92億円
特に、新規事業の創出と事業領域の拡大を目指し、**戦略的投資として150億円**の予算枠を設定した。



同じように、成長していくためにそういった部署を支援する、あるいは新しい事業領域をしっかりと確立するということで、3カ年の投資額を255億円と設定をしました。この中には当然、設備投資も入っていますし、研究開発、人材投資も入っております。ただ、戦略投資として150億円枠を設定しました。この中には既に着手しています戦略投資額も含まれております。後ほど少しご説明をしたいと思います。

基本方針② 経営理念を基盤としたESG経営の実践



経営理念に基づき新たに制定した「サステナビリティに関する基本方針」に沿って、優先的に取り組む重点施策（マテリアリティ）を特定。各施策でKPIを設定・管理し、ESG経営を実践する体制を構築する。

サステナビリティ基本方針

不動産テラグループは経営理念に基づき、さまざまな社会基盤の整備を通じて豊かで安全・安心な国土づくりを促進し、持続可能な社会の実現を目指します

マテリアリティ



！ サステナビリティ基本方針・マテリアリティの詳細については、2024年9月発行予定のコーポレートレポートに記載予定

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 26

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



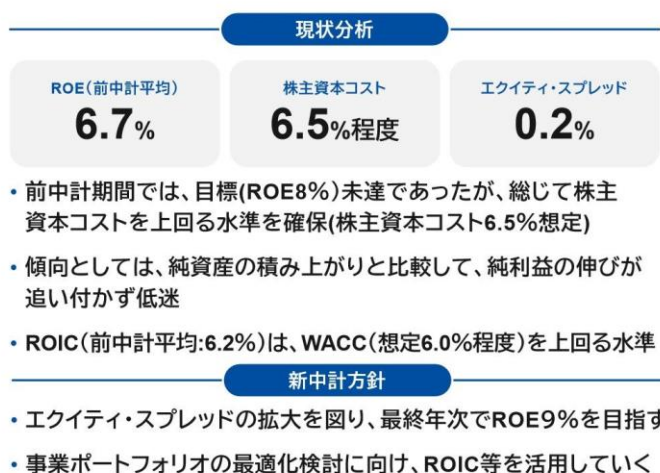
そして、2 番目としまして、経営理念を基盤とした ESG 経営の実践です。これは本当にいろんな企業さんも取り組まれています。私どもも ESG 経営を実践する体制を構築する意味でも六つの重点施策を特定して、KPI を設定して管理をしていく、途中の段階でもしっかり目標数値を決めながら取り組んでいくことを方針にしています。

この辺の詳細につきましては、今年度発刊しますコーポレートレポートでは明記をさせていただくつもりをしています。

基本方針③ 資本コストを意識した経営の実践



事業成長の実現に資する財務戦略・資本戦略を実行。資本コストを意識し、事業ポートフォリオの高度化を図るなど持続的成長を追求することで、最終年次の2026年度にはROE9.0%の達成を目指す。



● ROEの推移



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 27

三つ目としまして、資本コストを意識した経営の実践です。前中計の反省でもお話をさせていただきました。純資産の積み上げに比べて、純利益の伸びがなかなか追い付かなかったのが前中計の結果でもあります。しっかり株主資本コストを意識しながら、エクイティスプレッドを拡大させることをしっかり頭に入れながら、各事業が展開していくことが必要になってきます。

ですので、事業ポートフォリオの最適化を検討することもあり、ROIC等をしっかり活用しながら、各事業の最適化にも取り組んでいく所存であります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



基本方針③ 資本コストを意識した経営の実践



キャッシュ・フロー・アロケーション方針 「成長投資と株主還元の両立による企業価値の最大化」
営業活動により創出したキャッシュに、積極的に負債を活用して、戦略的投資を行う。



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 28

今の資本コストを意識した経営の、実践の一つのキャッシュ・フロー・アロケーション方針をここにお示しをさせていただきます。成長投資と株主還元の両立、そして企業価値の最大化を求め

る。

今まで割と営業キャッシュフローの中で投資活動もしてまいりました。ただし、この中計では多くの戦略的な投資を実施するというので、負債も活用しながら資金調達を行っていきたい。ただし、自己資本比率 40%以上は維持しながら実施をしていくつもりをしております。

当然、株主様への還元についても 40%は守るということで、当然、利益がたくさん出れば、今 60 円を最低としておりますけれども、40%とご理解をいただければと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

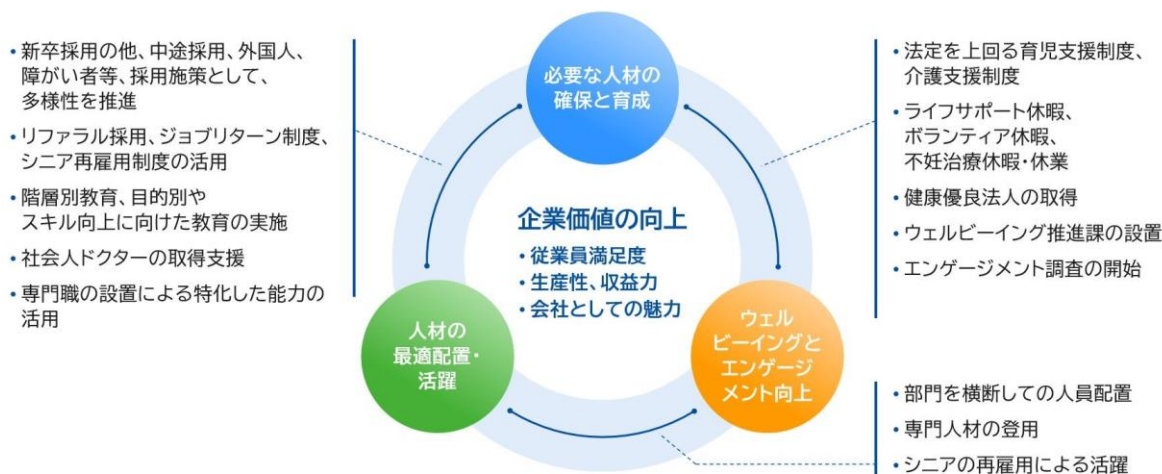


基本方針④ 人的資本経営の推進



従業員の働きやすさ(ウェルビーイング)、働きがい(エンゲージメント)を追求し、魅力ある会社、選ばれる会社の実現。人材採用、人材育成、最適配置を通じて、人的資本の最大化、企業価値の向上を目指す。

－ 新中期経営計画では、これまで実施してきた各種施策の分析、改善を通じて、経営戦略と連動した人事戦略の構築を図る－



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 29

四つ目に、新しく、人的資本経営の推進を基本方針に挙げました。今も当然、働きやすさと働きがいがある職場がないと人材の確保、働き手の確保も難しくなってきます。そういった意味で、人的資本を何とか最大化するためにも、いろんな政策を実施していく。あるいは既に実施しておりますものもたくさんありますので、それをもう少し拡大していくといったこともこのコメントとして入れさせていただきます。

特に社会人ドクターの取得支援も、昨年度は女性の技術者が4年かかって社会人ドクターも取っております。そういった形で支援をしながら、人的資本の拡大といった意味でサポートもしていきたいと思っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



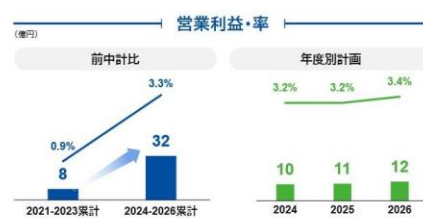
事業方針

新たな挑戦へのリ・スタート
～ 成長路線に向けた事業基盤の強化 ～

事業戦略1	事業戦略2	事業戦略3	事業戦略4
事業規模拡大	積極的成長投資	生産性の向上	人的投資
〔 施策 〕	〔 施策 〕	〔 施策 〕	〔 施策 〕
- 既存領域における差別化戦略 - リニューアル事業への積極的参画 - 環境関連事業の強化(研究開発・調査・設計・施工体制整備) - 戦略的パートナーシップの構築	- 自社独自技術の開発促進(差別化戦略) - 環境性能及び作業性能の高い作業船新造による他社との差別化 - 業務提携、M&A及び関連会社との連携強化を積極的に推進	- DXソリューションの積極的取り組み - 生産性と安全性を向上させるための新技術導入 - 社員の意識改革による時間管理の最適化	- 施工要員の確保と離職率低減 - 人材育成・教育研修の充実 - 中堅・若手技術者の育成強化(早期戦力化)

●業績目標(連結)

	中計2024-2026 累計
受注高	1,005億円
売上高	983億円
営業利益額	32億円
営業利益率	3.3%



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 30

それでは、少し事業についてご説明をします。土木事業です。本当にここにリ・スタートと書いておりますけれども、決して手持ち工事が減っているわけではなく、大きな工事が中断したり、着手がなかなかできなかったことで、手持ち工事はかなり多くある中でのスタートになります。そういう中で、売上もそういった工事が着手し始めていますので、右肩上がりになっていくだろう、そしてその分、当然、利益も右肩上がりが増えるという計画をしております。

その中でも少し大きな投資になりますけれども、環境性能、あるいは作業性能を新しく取り入れた新造船を既に建造を開始しています。これは450トン吊りのクレーンを搭載した船舶になりますが、今、保有しています船舶の老朽化もありますので、新造船は来年度には完成の予定です。あとICT関係、あるいは環境関連にも研究開発などにしっかり取り組みながら、少しでもリ・スタートの力になればということで取り組んでおります。

今年度、昨年度のかんりのマイナスが出た中でのスタートとなりますが、その辺の反省と課題については、昨年度、しっかり整理をしましたので、少しは影響がまだ残るかも分かりませんが、私としては、ほぼ昨年になんといったものは整理できたということで、今年度以降、新しい中計ではまた安定した土木の業績が残せるのではと期待しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

事業戦略 地盤改良事業



事業方針

必要な経営資源への積極投資と展開による事業の持続的発展
社会課題解決による存在意義向上と地盤を礎とした新たな領域の拡大

事業戦略1	事業戦略2	事業戦略3	事業戦略4
民間事業の拡大	成長市場への展開と事業領域の拡大	海外事業の安定化	社内体制・システムの効率化
〔 施策 〕	〔 施策 〕	〔 施策 〕	〔 施策 〕
- 民間事業への重点営業 - 改善／開発された工法(リソイルProなど)による営業展開 - グループ会社(愛知ベース工業等)との連携強化による建築市場の拡大	- 新たに開発する工法による市場の創出 - エネルギー関連施設など拡大市場への売込み強化 - バイオマス混合CPによるカーボンニュートラル市場への事業展開	- AGIとの連携強化によるアメリカでの受注拡大 - アジアでのローカル人材の育成による体制強化	ICT技術による業務効率化、DXの推進など

●業績目標(連結)

	中計2024-2026 累計
受注高	1,183億円
売上高	1,160億円
営業利益額	97億円
営業利益率	8.4%



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 31

次に、地盤事業でございます。前中計で、3カ年で1,000億円の売上を上げました。この中計では、1,160億円で、3カ年で100億円の上積み、最終年度には400億円を超える売上を期待する計画です。

ただし利益につきましては、初年度、今年度の利益が少し低めの設定になります。これは大規模な工事の準備にかかっておりまして、そこに主戦力となります船舶の改造にかかっておりますので、そういったところに費用もかかりますし、人員を配置したり、いろいろ準備を始めましたので、そこは工事着手はまだ来年度以降になるだろうと思いますので、そういった影響も若干あって今年度は少し利益的には少ない形になります。

ただ、3期でいきますと100億円近い営業利益を3カ年で計画しております。それぞれの施策もしっかり既に答えが出てきておりますので、次の中計3カ年でもしっかり当社の利益の、本当に中核を占める事業と理解をしております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



事業戦略 ブロック環境事業



事業方針

安定的黒字化を目指した事業の再構築
既存事業にとられない各種施策や新規事業への取り組み

事業戦略1	事業戦略2	事業戦略3	事業戦略4
事業モデルの変換と収益源の確保 〔 施策 〕 3Dプリンタなどをベースとした事業の模索(製品・施工) - 環境配慮型コンクリートなどをベースとした事業の模索(材料) - 他企業との業務提携の拡大・推進、洋上風力発電事業への参画	分野別シェアの維持・拡大 〔 施策 〕 - ICT技術を活用した老朽化対策需要の取込 - 高波浪領域での競争力強化、河川・砂防市場でのシェアアップ - 防衛関連プロジェクトへの参画 - 海外展開(ライセンス事業の拡充・ODA案件の取込)	収益力の向上 〔 施策 〕 - 市場規模に見合う型枠保有適正化 - 事業規模に則した適正な要員体制、設備投資水準 - 物価高を反映した適正な賃料の追求(賃料アップ)	ESG経営を意識した企業価値向上 〔 施策 〕 施策:ブルーカーボン・グリーンインフラ関連事業への取組推進(産学共同事業への参画、民間企業・漁協等との協業)

業績目標(連結)

	中計2024-2026 累計
受注高	91億円
売上高	96億円
営業利益額	7億円
営業利益率	6.9%



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 32

ブロック環境事業です。何とか赤字からは脱却できたと踏んでおります。その中で、今の型枠賃貸事業にプラスした新しい市場をどう構築していくのかが、次の3カ年でも課題になろうかと思っております。特に今まで取り組んでいない、例えば環境配慮型の仕事、あるいは藻場の育成といった自然との調和を含めた事業、そういったところに今まで培った技術をどう活かしていけるかということで、3年後、賃貸事業以外がどれだけプラスされるかというのがブロック環境事業の課題になろうかと思えます。

ある程度は大型の工事がありますので、型枠賃貸も安定して、大きな利益ではありませんけれども黒字化で3カ年が進んだと設定をしております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



株主還元政策



前中期経営計画から引き続き配当性向40%程度を維持し、利益成長を通じた増配を目指す。

株主還元方針

株主の皆様に対する利益還元と経営基盤の強化を
重要な経営課題と位置付け、
安定的に株主還元を継続する

株主還元目標

基本方針を踏まえ、
配当性向・1株当たり配当金は以下を目標とする

配当性向
40%程度

配当金
60円以上

過去5年間の実績(円)



株主様への還元政策です。冒頭でもお話ししましたように、安定的には継続することと、配当金60円以上についてはお約束をさせていただいて、配当性向40%については、その年度の利益の結果によっては増配を目指す形で考えさせていただいております。

かなりの設備投資、あるいは事業戦略投資を今年度も実施をする予定をしておりますので、その辺を踏まえての株主様への配当とご理解をいただけたらと思います。

【参考】株主総利回り(TSR)



投資と還元のバランスに配慮し、中長期的に持続可能なTSRの向上に努める。
過去5年(下図)では、TOPIX、建設セクターと比較して遜色のない水準となっている

	過去1年		過去3年		過去5年		過去10年	
	累積/年率	累積	累積	年率	累積	年率	累積	年率
不動産テトラ	30.0	16.3	5.2	63.3	10.3	38.4	3.3	
TOPIX配当込	41.3	52.5	15.1	96.2	14.4	188.6	11.2	
TOPIX建設配当込	51.4	64.4	18.0	80.5	12.5	221.0	12.4	

2019年3月末の終値を100とした配当込株価(配当再投資)



*1 TSR (Total Shareholder Return): キャピタルゲインとインカムゲインを合わせた、株主にとっての総合投資利回り。配当を再投資すると想定。

*2 2024年3月末の終値を基準としています

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 34

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



TSR の動向です。過去 5 年で見てくださいと、TOPIX、建設セクターとも、私ども不動産テトラはブルーの線でございますが、傾向的にはそう遜色のない水準で 5 年間推移しているかなと。1 年ですと少し違うんですけども、5 年というスパンで見ますと遜色のない水準になっていると考えております。

主な完成案件 土木事業



◆令和4年度糸満地区岸壁(-7.0m) 本体工事



事業主体:水産庁
施工場所:沖縄県糸満市

◆令和2年度 駿河海岸一色離岸堤 災害復旧工事



事業主体:国土交通省中部地方整備局
施工場所:静岡県焼津市

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 36

トピックスとしまして、土木の完成工事です。これは昨年度の完成工事です。水産庁の沖縄の糸満漁港、国交省の中部地整の駿河海岸一色離岸堤。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



◆R5圏央道神崎地区改良その1工事



事業主体:国土交通省関東地方整備局
(元請会社:株式会社新井組)
施工場所:千葉県香取郡

◆熊本港港湾環境整備(圧密促進工
その1~その4)工事



事業主体:熊本県
(元請会社:明興・凰建設工事共同企業体)
施工場所:熊本県熊本市

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 37

地盤事業では、国交省の神崎の圏央道のインターの拡幅、熊本県の熊本港は土捨て場の容量を増やすための減容化の工事で、当社の特許工法が採用になっております。

◆R4鬼怒川下流部周辺整備工事



事業主体:国土交通省関東地方整備局
施工場所:茨城県下妻市

◆城山下臨海土地造成工事



事業主体:四国中央市
施工場所:愛媛県四国中央市

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 38

ブロックは、鬼怒川下流部の整備事業。これはかなり大規模でしたが、四国中央市で大規模に弊社のブロックが採用されて、つくり終えたときの写真でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

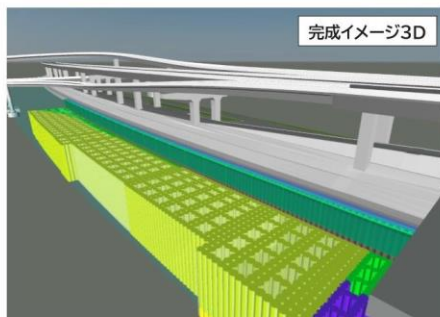
◆R3荒川中堤西小松川町地区護岸工事の完成

2020年1月に着工したR3荒川中堤西小松川町地区護岸工事が完成しました。本工事は、東京都江戸川区西小松川町における荒川左岸中堤の中川側低水護岸の耐震補強を目的として、護岸の老朽化対策と護岸前面の地盤を改良する工事です。

本工事では、発注者から提供されたCIMモデルに当社が開発したプログラム(注1)を適用し、大幅に作業効率を上げることができました。さらに三次元モデルを用いた可視化により、工事関係者への説明が円滑に進み、現場運営の効率化を図りました。

工事区域の上流側は国道14号線小松川大橋、下流側は首都高速中央環状線小松川ジャンクションがあり上空制限がある中で、の施工となりましたが、無事故・無災害で工事を竣工させました。

注1)属性情報を一斉に付与するプログラム



発注者 国土交通省関東地方整備局
施工場所 東京都江戸川区西小松川町



完成写真

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 39

トピックスとしまして、これは土木事業です。荒川の中堤という、高速の脇でございますが、ここは地震時の被害を軽減する、あるいは補強するという事で、大規模な地盤改良と、新しく護岸整備が行われております。これも40億円規模の仕事でしたけれども、これは無事故、無災害で完成をさせております。

◆環境負荷を大きく低減する地盤改良工法「リソイルPro(プロ)工法」を開発 (2023/11/30報道発表)

脱炭素社会の実現に向けた新たな技術として、建設現場で発生する土(建設発生土)を地盤改良工事に活用する「リソイルPro工法」を開発しました。

この技術は、従来のサンドコンパクションパイル工法に新たな材料供給システムを搭載することで、施工機械内の材料通過性を向上させ、建設発生土を改質処理せずそのまま利用できる仕組みです。建設発生土を改質する工程や設備、人員の削減だけでなく、資材の搬入や建設発生土の搬出から発生するCO₂排出量の削減や自然材料の採掘による環境破壊を防止し、地盤改良技術による防災・減災と環境負荷低減の両面で社会課題を解決し、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。



SAVEコンポーザーとリソイルPro工法との比較

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 40

地盤事業としましては、環境負荷を大きく低減する、リソイル Pro という工法を開発して、昨年度末に発表しております。今まで、採取してダンプで運んできた材料を、ほとんど運ばずに現地の中で残土を再利用をしながら、それで施工を終わらすということで、CO₂の発生の軽減にも役立つ工法だと考えています。

トピック ブロック環境事業



◆CO₂排出量を112%削減した「CUCO®-SUICOMテトラポッド」を開発、製造（2024/1/25報道発表）

NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)のグリーンイノベーション基金事業にて「CO₂を用いたコンクリート等製造技術開発」プロジェクトの一環として、鹿島建設株式会社(鹿島)は、デンカ株式会社、株式会社竹中工務店とともにコンソーシアム「CUCO®(クーコ)」の幹事会社として、コンクリートの製造過程で排出される二酸化炭素(CO₂)の排出量が実質ゼロ以下となるカーボンネガティブコンクリートの開発を進めています。

鹿島と共同実施先である当社は、熱海ビーチライン(静岡県熱海市)の屋外製造ヤードでカーボンネガティブコンクリートを用いた消波ブロック「CUCO®-SUICOMテトラポッド」を製造し、コンクリートの製造段階で排出されるCO₂を一般的なコンクリートで製造されるテトラポッドと比較して112%削減することに成功しました。

「CUCO®-SUICOMテトラポッド」(以下、CUCOテトラ)は、コンクリート製造時にあらかじめCO₂を吸収・固定したCCU材料である炭酸カルシウムを多量に配合するとともに、炭酸化養生を行うことでCO₂の吸収量と固定量を増大させたことにより、カーボンネガティブを達成しました。また、炭酸化養生により、コンクリートの表面が低アルカリ化し、より環境保全に適したものとなっています。

これまでの、炭酸化養生を行うコンクリートは、プレキャストコンクリート工場で製造・出荷されるもののみでしたが、今回、初めて市中の生コン工場で製造したコンクリートをアジテータ車で現場(熱海ビーチライン)に運搬し、打設・脱型、炭酸化養生までを実施しました。これにより完成までの全ての工程を現場で実施できることを確認しました。



熱海ビーチライン沿岸に設置したCUCOテトラ

© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 41

同じく、ブロック環境も CO₂ 排出量を減らすということで、これは鹿島建設さんとの共同になりますが、こういったコンクリートを消波ブロックに用いるということで、既に実験をして、鹿島建設さんが管理されている熱海の道路、熱海ビーチラインに置かせていただいて、今、経年劣化の調査に入っているところであります。

サポート

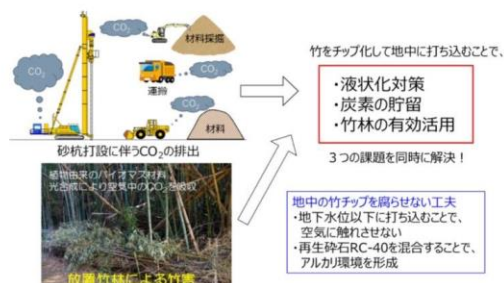
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



◆地盤改良と同時に地中に炭素を貯蔵する「ネガティブエミッション技術」が地球環境大賞奨励賞を受賞

2022年に報道発表した地盤改良と同時に地中に炭素を貯蔵する「ネガティブエミッション技術」がフジサンケイグループ主催の第32回地球環境大賞「奨励賞」を受賞しました。

4月4日、明治記念館で秋篠宮皇嗣同妃両殿下をお迎えして開催された授賞式では、奥田社長が表彰状とトロフィーを授与され、両殿下もご臨席されたご懇談会では秋篠宮皇嗣妃殿下より、竹チップのサイズに関する質問をいただきました。バイオマス材料を地中に打ち込むことで、炭素を地中に貯蔵することができる本技術は、炭素の収支を計算すると、地盤改良の施工に伴って重機から排出される二酸化炭素(CO₂)よりも、地中に炭素を貯蔵する量の方が圧倒的に多く、従来の砂を材料に使用する場合と比べるとCO₂を約600%削減することが可能であるため、トータルでCO₂を削減する「ネガティブエミッション技術」となります。本技術は、「液化化対策」「炭素貯蔵」「竹林の有効活用」、この3つの課題を同時に解決することができ、カーボンニュートラル社会の実現に寄与します。



© Copyright Fudo Tetra Corporation All rights reserved. 42

地盤改良を行うときに二酸化炭素を地中に入れ込むということで、これは竹チップといいますか、竹の廃材を使いまして、それを材料にして地盤改良する技術を確立しました。これにつきましては、地球環境大賞の奨励賞を受賞することができました。こういった技術を今後、どのように実際の事業に活かしていくかというのも地盤事業にとっては大きな武器ですし、課題であろうと考えております。

以上、ちょうどお時間になりました。駆け足ですけれども、前中計の振り返りと本中計の概要についてご説明をいたしました。ありがとうございました。

司会：ご説明、どうもありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

質疑応答

司会 [M]：それでは、質疑応答の時間にまいります。まずは会場参加の方から質問をお受けいたします。なお、この説明会は質疑応答も含めて全文を書き起こしですので、匿名希望の方は名乗らないようにしてください。ご質問のある方、お願いします。

スズキ [Q]：ご説明ありがとうございます。極東証券経済研究所のスズキと申します。土木のところで、工事損失引当金の説明がありました。かなり粗利率も下がってということです。この工損金の計上は、前期である程度めどがついたというところになるのか、今期以降もまだ影響を考える必要があるかどうか、この辺についてお聞かせいただければと思います。

奥田 [A]：ありがとうございます。私からご説明をさせていただきます。本編のご説明でもお話ししましたように、ほぼ前期に損失引当も含めて処理させていただいた。当然、公認会計士の方とか、いろんな方とご相談しながら、ルールにのっとってしっかり入れさせていただいたということで、本当に経営的には、期初にそういう見通しが全くなかったものですから、急激なことでしたけれども。付け加えますと、地盤の業績がかなり良くなりましたので、それも併せて全て処理をさせていただいたとご理解いただければと思います。

司会 [M]：他にご質問はいかがでしょうか。お願いします。

質問者 [Q]：ありがとうございます。戦略投資 150 億円の中身がよく分からなかったんですが、新造船のことを指されているのでしょうか。

奥田 [A]：戦略投資の中に、地盤改良船の、これはほぼ全く動いていなかった、休船していた船があるんですけども、市場がかなり将来的に増えそうだという認識で、受注戦略上かなりの金額を投資しますが、仕事を受注できるだろうと、利益も出るだろうということで、地盤改良船 1 隻、戦略的な投資ということで既に着手しました。

土木事業の起重機船舶については戦略的投資というよりは、どちらかといいますと今、所有している船が随分老朽化というよりは、今の求められる要求性能からするとそれに応えるには古くなってきていますので、これは更新投資だろうということで、戦略投資の中には入れておりません。

残りの戦略投資については、今、ご説明するのは控えさせていただくことになると思いますけれども、そういった意味で枠をもって取り組んでいるとご理解いただければと思います。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



質問者 [Q]：先ほどの 100 億円規模の廃棄物処理工場の件ですが、これは 4 月に着工して、聞きそびれたかもしれませんが、昼夜施工をするみたいなお話をされていましたが、これは工期を考えると昼夜ぶっ続けでやらないと駄目で、それは今の上限規制みたいなことを考えると、かなり収益的には厳しい案件でしょうか。

奥田 [A]：いや、逆にもともと、昼夜といいまして 24 時間という意味ではなくて、2 交代でできる。今の残業規制の上限は当然、守るわけですし、4 週 8 休も守るわけですので、その中で 2 交代で、重ダンプとか本当に大きな重機を入れますので、そういったものの稼働を良くする意味もあります。当然、工期も許認可が遅れましたので、それは当然、事業主さんに対してわれわれは努力する必要がありますので、その辺も含めて 2 交代でという意味での昼夜施工です。24 時間という意味ではないので、そこだけご理解いただければと思います。

質問者 [Q]：もう 1 点、もう 1 個の中断していた工事は、現時点でもう再開されていますか。

奥田 [A]：まだです、そちらは。それは今、協議中です。

質問者 [Q]：これはまだ見通しが立っていませんか。

奥田 [A]：秋ぐらいからという見通しをしています。

質問者 [Q]：その見通しのもとに、この 25 年 3 月期の業績予想は出されているのでしょうか。

奥田 [A]：そのとおりです。

質問者 [Q]：要するに下期着工ですか。

奥田 [A]：下期といいますか、下期の遅いほうです。年度末ぐらいです。

質問者 [M]：分かりました。ありがとうございます。

司会 [M]：ありがとうございました。他にご質問はどうでしょうか。

質問者 [Q]：ご説明ありがとうございます。設備投資がより分からなくなってしまったんですけれども。戦略投資の中で実施するとおっしゃった地盤改良船の投資は、今期から来期、竣工するっておっしゃった船とはまた別の船でしょうか。これは今ある船とは全く違う船ですか。休止していた船を再度動かすための投資ですけど。

奥田 [A]：船舶の保有一覧の中で、休船中ということで 7 年ぐらい全く動いていなかった船を、もう新造船に近い形の費用がかかるんですけれども、新しく現在、つくっています。これは大きな実際に発注されています工事に用意する船とは別です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

質問者 [Q]：竣工予定は中計には関わらない期になるということですか。

奥田 [A]：出来上がるのですか。

質問者 [Q]：はい。

奥田 [A]：いや、もう今年度中に出来上がります。昨年度からかかっていますので。

質問者 [Q]：分かりました。もう一つは、地盤改良事業でも今年度、大きなプロジェクトにかかる船舶の改修とかの費用等が発生するっておっしゃっていた部分は、ここと新しく来期竣工する船ともまた別ということですか。

奥田 [A]：別です。

質問者 [Q]：この費用が、今年度の営業利益の予想が来期の予想に比べて 10 億円ぐらい低いですが、ここにどれぐらい影響しているという感じですか。

奥田 [A]：どちらかといいますと、かかる費用というよりは、その船が今、準備段階で、これはかなり時間がかかりますので、実際に施工して売上を上げて収益を上げる時期では、今期はないということで利益に貢献できない、来期以降は利益に貢献できるだろうとご理解いただいたほうがいいかと思います。

質問者 [Q]：ありがとうございます。この中計の中で地盤改良工事の売上と利益の変動がよく分らなかったんですけれども。今年度、稼働ができない船があって、売上がそんなに伸びない割には、来年度の見通し的に売上が 11 億円しか上げられずに利益が 10 億円伸びるという予想と、その次の期に向けての売上の伸びがやたらと高く、利益貢献がやや小さいとか、ここら辺の変動は何によって起こっているのか教えてください。

奥田 [A]：海上工事で陸上工事で、当然、船舶の損料収入も含めると、採算という意味で、船が動くとかかなり利益が良くなるのはご理解いただけたと思うんですけれども、その船の稼働状況と工事の施工時期の予定を照査した中で、こういう計画になっているとご理解をいただければと思うんですけれども。

質問者 [Q]：分かりました。そうすると、今期から来期にかけてぐっと海上工事が伸びるところで、来期の利益がかなり伸びる。来々期にかけて、もう一段、売上トップライン成長に関して言うと、これは高水準の海上工事プラス陸上での地盤改良工事が売上の伸びる局面が、27 の 3 で予想している感じですか。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



奥田 [A]：そうですね。それと、いろんな事業領域を拡大しようと施策を打っていますので、利益率という意味ではそう高くないかも知れませんが、売上としては貢献する分野が少しずつ地盤は増えるということもプラスだと思っております。海外も含めてですね。

質問者 [M]：ありがとうございました。

司会 [M]：ありがとうございました。もし質問が足りない、し切れなかったところがありましたら、会社の IR 担当者様宛て、メールなり電話でご連絡いただいたらご回答していただけるということですので、よろしくお願いします。では、以上をもちまして説明会終了です。皆様、お疲れさまでした。会社の皆様、ありがとうございました。

奥田 [M]：ありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com